

毎日が面白いIT業界 デベロッパーがヒーローになって 社会を変える世界にしたい

日本アイ・ビー・エム株式会社
デジタル・ビジネス・グループ
デベロッパー・アドボカシー事業部
シニア・デベロッパー・アドボケイト

戸倉 彩
Tokura Aya



職業「戸倉彩」——自身をそう形容するデベロッパーとしての彼女のTwitter (@ayatokura) のフォロワーは1万人にも上る。2018年5月に日本IBMに入社し、現在の肩書は「デベロッパー・アドボケイト」。アドボカシーとは、一般的には支持、唱道、擁護といった意味で用いられるが、IBMのデベロッパー・アドボケイトは、「デベロッパーに技術を伝えるだけでなく、きちんと学んでもらって自走できるように支援、伴走する」という役割を担う。技術情報を広く発信するエバンジェリストに対し、さらに一步その先に踏み込んで一緒に創り上げて課題を解決するところまでフォローするという意味が込められている。

「私たちのチームのミッションは、デベロッパーにヒーローになってもらうべく、社会の問題を素早く賢く、一緒に解決できるように支援することです」と戸倉は自らの活動内容を紹介する。具体的には、グローバルで展開する社会課題解決をテーマに「IBM Cloud」を活用したアプリ開発に挑むコンペ「Call for Code グローバルチャレンジ」などのイベントやセミナーの企画・運営のバックアップから、ハンズオンの講師やハッカソンのテクニカルメンターといった技術支援、さらには学校の特別授業に登壇し文教方面への普及啓蒙活動にも取り組む。また、本来の仕事のほかにも、これまでの活動の蓄積も含めてオープンソースのコミュニティー活動、書籍や技術ブログの執筆、外部でのテクノロジーや最近では女性技

術者関連の講演と幅広く活躍している。

そんな多忙な日々であるが、戸倉は「毎日が面白い」と目を輝かせる。「ITの世界では、毎日同じ日がありません。例えばGitHubでは、既存の公開されているプログラムに対して問題の報告や、コードを書き直す提案が行われ、マージされて修正されてというサイクルが時間で動いています。そこに自分たちが常に携われる上、必要なテクノロジーもすぐに使える。それが、毎日が面白いと感じる理由です」

* * *

戸倉がテクノロジーに興味を持ったきっかけは、小学生の時に遊んだゲーム機だ。のめり込むうちに、何とかして音や色、ストーリーを変えたいという気持ちになった。それをきっかけに秋葉原に毎週のように通うようになり、店頭で誰かがパソコンを動かしているのを見て、「いつかパソコンを触ってみたい。毎日触れたらいいなあ」と感じていたという。

中学卒業後に、コンピューター技術を習得するため米国に留学。偶然にもIBMの研究所があるテキサス州オースティンの州立高校に入学したが、そこには「IBMのマシンがたくさんあり、プログラミングの授業も行われていました。大学では先輩にハッキング・コンテストに誘われ、すごい世界があると衝撃を受けた」という学生時代を過ごした。

エンジニアとして働くために帰国するも、当時は就職氷河期真っただ中。これだけ貴重な体験をしているにもかかわらず、女性エンジニアの存在が今ほど認知されて

オープンソースの匠 たくみ

おらず、なかなか希望する仕事に就けなかったという。そうした中で、中堅SI会社にサポート・エンジニアとして採用された。この「サポート・エンジニアとしての出発点が、今の自分を作った原点」と戸倉は振り返る。周囲で働く高いスキルとプライドを持った女性派遣エンジニアの存在、マルチ・ベンダー環境がゆえに発生するトラブル、困っている人のさまざまな質問、これらと日々対峙することによって、技術者としての自覚とスキル、そして洞察力が養われた。

その後セキュリティ・エンジニアへ転身し、子育てによる休職の時期を挟んで大手システム会社へ入社した。志望したきっかけは、エンジニアに対してクラウド・エンジニアの卵という設定の「萌えキャラ」を使ってリレーションを図っていたことだという。

「クラウドでバリバリとコーディングをするキャラクターは、まさに自分のロールモデルだと思いました(笑)。企業がエンジニア・フレンドリーになっていくための手法として、萌えキャラという設定を使ったのだと思いますが、日本のエンジニアは漫画で学んだり、愛着心を持ちたりするものなので、面白いアイデアですよ」

これは、「デベロッパー・リレーションズ (DevRel)」という技術者を狙ったマーケティングのスタイルの1つだが、このDevRelの普及活動も現在の戸倉の主たる活動となっていて、「DevRel エンジニアフレンドリーになるための3C」という著書も上梓している。また、IBMに在籍しながらオープンソース・コミュニティにも貢献し、活動していくというのもDevRelのアプローチである。

オープンソース関連の活動に傾注したのもこの時期からだった。今ではすっかりオープンソース、特にGitHub上で世界のデベロッパーが協力して創り上げられていくという共創の世界観に魅了されている。

「セキュリティ・エンジニア時代は自分が書いたコードは外に出せませんでした。GitHub上のリポジトリにはクラウドをスピーディーに使いこなすためのSDKやツールなどが上がっていて無料で入手できますし、問題があれば皆で検証していきます。なおかつ中で閉じられているのではなく、個人の名前も出て、良いものはSNSで拡散されていきます。オープンソースは皆の役に立つプラットフォームであり、技術者として自分を表現できる場でもあります」

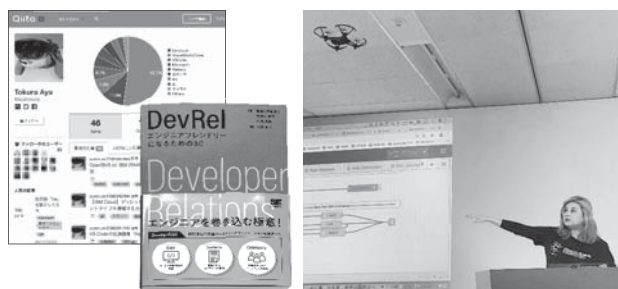
* * *

戸倉は現在の足元の状況を、「オープンソースの文化がエンジニアの文化にインストールされてきていて、オープンの世界のマインドがビジネスを加速するためのキーになってきている」と分析する。その意味では、テクノロジーの伝道師という立場から、日々の活動のなかコミュニティ活動も通じてIBM CloudやRed Hat OpenShiftをはじめとする注目のコンテナ技術を、より多くのデベロッパーがうまく活用していけるよう支援していくのがミッションとなる。

「技術を活用して0から1にするのがすごく好きで、1から10や100までを皆で一緒にやろうというところは得意です。IBMでは、100から1,000や10,000に広めるような部分を学びたいですね」と、さらなる強みの獲得を目指している。

今後の抱負については次のように語る。「エンジニアやデベロッパーが社会や技術の発展にどう貢献していけるかを考え実行していくことが使命だと考えています。オープンソースをはじめとしたテクノロジーを使い、多くの人を巻き込んでいく世界が広がっていけば、イノベーションや人の幸福度といった社会の大きな課題にも向かっていけると信じています」

戸倉の挑戦は続く。



(上段左) 著書「DevRel エンジニアフレンドリーになるための3C」やQiitaでの技術ブログ公開など多くの外部発信を行っている。
 (上段右) 箱崎で開催されたIBM CloudコミュニティイベントにてNode-Redでドローンを自動飛行させるデモを実施
 (下段) 国内で初めてオープンソースの開発者ツール「Visual Studio Code」に関するコミュニティ「VS Code Meetup」を仲間と一緒に立ち上げ